

EU Indicators

欧州経済指標コメント：2月ドイツ I f o 企業景況感

発表日：2015年2月24日(火)

～ユーロ安、原油安、万歳～

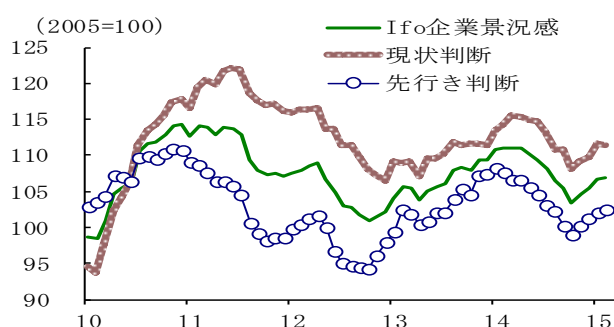
第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

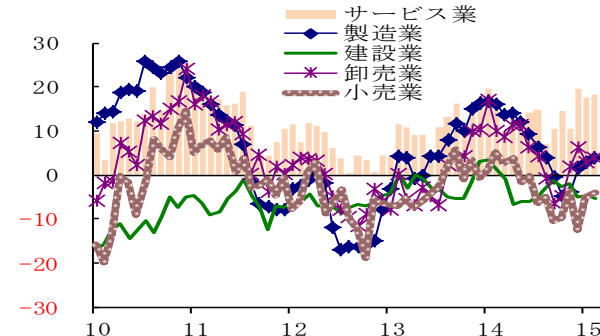
- 23日に発表された2月のドイツの I f o 企業景況感（2005年＝100の指数）は4ヶ月連続で改善（前月：106.7→今月：106.8）。内訳は、現状判断（111.7→111.3）が4ヶ月振りに悪化した一方、先行き判断（102.0→102.5）が4ヶ月連続で改善。業種別の先行き判断（ゼロが業況判断の分岐点）は、建設業（▲4.8→▲5.4）のマイナス幅が拡大した一方、小売業（▲4.7→▲3.9）のマイナス幅が縮小、製造業（+2.8→+4.0）と卸売業（+3.1→+4.1）のプラス幅が拡大した。別途発表されたサービス業の業況判断（+24.6→+22.7）は、依然として高水準を維持しているものの、現状判断（+31.9→+27.2）の改善に翳りもみられ（先行き判断は+17.5→+18.4）、2ヶ月連続でプラス幅が縮小した。
- 改善幅は事前予想を下回る小幅なものにとどまったが、調査期間中はギリシャやウクライナ情勢を巡る不透明感が広がった時期と重なり、企業の業況判断にも少なからず悪影響を及ぼしたとみられる。その一方で、内外需セクターの先行き判断が揃って改善傾向にあり、ユーロ安浸透による輸出需要の回復、原油安によるコスト負担の軽減などが、先行きの業況改善を後押ししている様子が窺える。こうした姿は20日に発表された2月のユーロ圏のPMI速報でも確認された通り。10-12月期のドイツの実質GDPは個人消費、設備投資、輸出が幅広く貢献し、成長率が加速したが、年明け以降も順調な景気拡大が続いていることが示唆される。受注項目なども全般に改善基調にあり、去年の夏場にかけて広がったドイツ景気の後退懸念も完全に杞憂に終わった。

■ドイツ：I f o 企業景況感



出所：I f o

■ドイツ：業種別の先行きの業況判断



出所：I f o

■ドイツ I f o 企業景況感

	2014				2014								2015	
	1Q	2Q	3Q	4Q	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
企業景況感(総合)	110.9	110.1	106.6	104.5	109.4	108.1	106.4	105.4	103.4	104.6	105.5	106.7	106.8	
現状指数	114.4	114.9	111.6	109.0	114.6	113.3	110.8	110.7	108.1	109.2	109.8	111.7	111.3	
先行き指数	107.5	105.6	101.8	100.1	104.5	103.1	102.2	100.2	98.9	100.2	101.3	102.0	102.5	
業況判断	14.6	13.2	6.4	2.2	11.8	9.2	6.0	3.9	0.1	2.4	4.2	6.6	6.7	
製造業	19.1	17.8	10.4	4.2	15.6	13.2	10.2	7.8	1.8	3.7	7.1	9.3	9.5	
建設業	0.1	-4.6	-3.9	-3.8	-4.4	-5.0	-3.6	-3.0	-3.1	-3.2	-5.2	-5.6	-5.8	
卸売業	13.8	13.0	3.0	4.4	11.9	9.4	1.5	-2.0	0.3	5.8	7.1	8.3	8.2	
小売業	7.5	7.7	0.4	-4.0	9.1	3.0	-0.3	-1.5	-5.4	-2.3	-4.2	3.2	3.3	

出所：I f o

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。